

新潟東高校生の皆さんへ

令和 2 年 5 月

校長 富樫 信浩

皆さん、久方ぶりの学校はいかがですか？皆さんは、学校から出された課題に真摯に取り組みましたか？新型コロナウイルス感染拡大予防によりおよそ、2ヶ月ほどの臨時休校となりましたが、本日から週1回の分散登校が許可されました。しかし、新型コロナウイルスの感染が落ち着くまで、しばらくは部活動など、多くの教育活動が制限されることになると思いますが、こうした時だからこそ、自分をしっかりと見つめ直し、前向きに取り組んでほしいと願っています。

さて、新学期を新たな気持ちで迎え、当然あったはずの未来が消えていく現状を皆さんはどのようにとらえ、日々過ごしてきただろうか？県内高校のある部活動指導者のブログには、次のように記されていた。

「高校野球の選抜大会の中止決定を受け、その報道の中で、ある出場予定校の監督が憮然として『子どもたちの夢を大人が奪って……』という発言をしていた。それは間違っている。間違っているというより、そんな短絡的で子どもじみた見解を監督が口にすべきではない。こうした見方は、これからの人生でたくさんの夢や挫折を経験していく若者にとっては有害でしかない。日本中、世界中、いろんな夢がある。夢が絶たれたのは日本の高校野球選手ばかりではない。思いがけず不幸な目にあったりコントロールできない混乱に見舞われたときに、僕らは何をすべきで、何をすべきでないのかということに尽きる。学校は休校で、部活動再開のメドも立たない。やれないことだらけだ、と思ったらその通りになる。悲しんで嘆いているから、嘆くような世界しか見えてこないのだ。絶望的と捉えれば絶望的にしか見えない。だが、今何が起こって、この状況で自分がやれることは何で、今まで試みていない選択肢がいくつ残っているか、つまり、やれること、やらずに残っていることに焦点を合わせれば、決して絶望している暇はない。やれることを見つけてそれをやる。それは『希望』なのだよ。そして、その『希望』は未来を信じている力だともいえる。」と。

続けて、フランクルの『夜と霧』の中からフランクルの言葉を引用し、「どんな絶望的な状況でも、我々は生きる意味がある。将来君を待つ誰かだったり、君が為すべき仕事だったり、そこに『今』は繋がっている。期待が持てない状況であっても、決して諦めず、今を生き抜くことに誇りをもってほしい」と。

高校生活の多くの時間を部活動に費やし、インターハイやコンクール等での入賞を夢見てきた東高生の皆さん、インターハイやコンクール等での入賞という夢は叶わなかったが、新型コロナウイルスによる混乱の時期があったから、自分は、私は、俺は強くなったと言っただけでほしいと思うし、そうなるべきだと思う。

明日からもししばらく臨時休校が続きますが、皆さんは、どう過ごしますか？

